様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　６ 日現在

機関番号：１５４０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2019～2021
課題番号：１９Ｈ０１２７０

研究課題名（和文）アカデミック日本語アセスメントの運用と評価

研究課題名（英文）Operationalization and Evaluation of Academic Japanese Assessment

研究代表者
渡部　倫子（Watanabe, Tomoko）

広島大学・人間社会科学研究科（教）・教授

研究者番号：３０３７９８７０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　13,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は，アカデミック日本語能力のアセスメントツールを運用し，その妥当性と効果を検証することであった。アセスメントツール（読みの流暢さ測定ツール，スピーキング能力の評価尺度，CLIL評価ツール等）を改善するため，国内外の教育機関，様々な背景を持つ教員と日本語学習者を対象に，妥当性検証のための調査・実験を主にオンラインで実施した。また，アセスメント開発や留学生教育のために活用可能なコーパスやシステム（学習者発音コーパス，日本語語彙特性対応型穴埋めテスト作成器JACKET，漢字問題作成支援システム等）の開発・出版も行った。以上の研究成果は，国内外の学会や学術誌で進捗を報告することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
（１）本研究で開発・検討されたアカデミック日本語能力のアセスメントツールにより，学習としての日本語アセスメントの実施を支援することができる。（２）アセスメントツールの妥当性検証により，アカデミック日本語能力の構成概念の一部が解明された。また，本ツールは，評価研究の実験・調査に必要なマテリアルとして活用することが出来る。（３）学習としてのアセスメントを実現するためのマニュアルを作成することにより，教師の評価リテラシーや指導技術の向上に貢献することができた。また，テスト問題の自動生成に関する研究成果は，生成AIを効率よく使用するためのプロンプト作成への応用が期待できる。

研究成果の概要（英文）：The aim of this study was to develop and validate an assessment tool for evaluating academic Japanese language proficiency. Various assessment tools, including a reading fluency measurement tool, a speaking ability evaluation scale, and a CLIL assessment tool, were improved through surveys and experiments conducted primarily online, involving educational institutions, teachers, and Japanese language learners from diverse backgrounds both domestically and internationally. Additionally, the study involved the development and publication of resources such as a learner pronunciation corpus, JACKET (a cloze test creator based on Japanese vocabulary characteristics), and a system for creating kanji problems, which can be utilized for assessment development and international student education. The research findings were disseminated through progress reports presented at academic conferences and journals, both in Japan and internationally.

研究分野：言語評価

キーワード：アセスメント　アカデミック日本語　CLIL　読みの流暢さ　コーパス　テスト問題自動生成

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

日本語教育の分野では，日本語学習の形成的評価や到達度評価のための，いわゆる小規模なクラスルームの中のアセスメントに関しては，研究の遅れが指摘されており，学習としてのアセスメント（Assessment as Learning）の実践と研究は急務である。学習としてのアセスメントとは，学習者が自律的に学習目標を設定し，学習プロセスを自己モニターした上で，教師主導による従来の評価，学習者同士で行うピア評価，自己評価の結果を元に，自らの学習方法を改善するプロセスを指す。しかし，学習としてのアセスメントが従来のアセスメントよりも日本語学習に貢献できるのかといった点は，未だ明らかにされていない。

また，日本語教師の多くが学習としてのアセスメントの重要性を認識しているにも関わらず，その実施に有用なツール（文章の難易度判定サイトなど）の活用方法や分析方法についての知識・技能に不安を持っており，評価リテラシーの向上が課題となっている。こうした現状から，2015 年ごろから，日本語教育の分野においても，教室環境や自律学習で活用できるオンラインの日本語アセスメントツールの開発がすすんでいる。しかし，そのツールの妥当性は十分検討されているとは言えない。先行研究の多くが，内容的妥当性と基準関連妥当性の確認に留まっているため，アセスメント結果に影響を与える変動要因（テスト課題の数と認知的負荷，アセスメントツールで用いられている日本語およびテスト項目の難易度，評価基準の内容と数，採点者の経験と人数，学習者のテスト・テイキング・ストラテジーなど）を解明し，妥当性を多角的に論証する必要がある（Hatasa & Watanabe, 2017）。

以上の課題を踏まえ，本研究では，外国人留学生（成人学習者）のアカデミック日本語能力の学習・評価に焦点をあて，これまでに開発したアセスメントツールを運用し，その妥当性と効果を検証することを目的とする。対象を外国人留学生としたのは，留学生 30 万人計画によって，留学生人口の増加が見込まれるからである。中でも近年，より優秀な人材（大学院生）を確保するため，短期留学生の受け入れプログラムが充実しつつある。滞日期間が短いがゆえに，より効率的なアカデミック日本語能力の学習・評価に対するニーズが高まっている。本研究により開発したアセスメントツールは，日本語研修のクラス分けテストや自習教材として活用することが可能である。

２．研究の目的

本研究は，教室環境における学習および自律学習としての日本語アセスメントの実施を支援するため，アカデミック日本語能力の学習・評価が行えるオンラインのアセスメントツールを開発し，その妥当性と効果を検証する。現在，日本語教育の分野において，汎用性の高いウェブ教材や自己評価が可能な can-do リストが開発され，実用化されつつあるが，その学習効果や妥当性の測定方法，学習推進のための評価方法は，未だ開発されていない。本研究の成果によって，大規模テストよりも細やかな学習成果のフィードバックを実現し，我が国の成長に資する優秀な外国人留学生のアカデミック日本語能力の育成に貢献する。

３．研究の方法

開発したアセスメントツールを改善するため，国内外の教育機関，様々な背景を持つ教員と日本語学習者を対象に，妥当性検証のための調査・実験を主にオンラインで実施し，アクセシビリティの高いインターフェイスを検討した。また，アセスメント開発や留学生教育のために活用可能なコーパス，システム，教材などの開発・出版も行った。具体的な調査・実験方法は下記の研究成果によって異なるため，ここでは割愛する。研究業績を参照されたい。以上の研究成果は，国際シンポジウム，学会発表，研修会，ウェブサイト等によって広く公開した。

４．研究成果

研究成果は，以下の４点にまとめられる。

（1）読みの流暢さ測定ツール

初級修了レベルに加え，中級レベルに統制した「日本語テクスト」と「4 肢選択式の内容理解問題 13 問」の 3 カ国語版（日本語，英語，中国語）を 10 セット作成した。次に，様々な背景を持つ日本語学習者を対象に妥当性を検証する調査を実施した。読み速度，内容理解問題の正答率，テクストに対する評定（内容を知っていたか，内容の難易度と面白さ）等のデータの記述統計量と古典的テスト理論を用いたアイテム分析の結果から，より妥当性の高い内容理解問題 10 問を精選することができた。この開発過程と妥当性の検証結果は，国際シンポジウムを共催し報告した。現在は，上級レベルのツールを作成し，同様に妥当性の検証を実施している。また，今後の研究の発展のため，多読・速読のための語彙力測定ツールの開発に着手した。現在は，マニュアルとして，Nation & Waring (2019)の翻訳書を出版する予定である。

（2）アカデミック・スピーキングのアセスメント

日本語のアカデミック・スピーキングの特徴と学習者の使用・習得実態を探るために，アカデミック・スピーキングの評価基準の構築と妥当性を検証した。評価基準は，IELTS，TOEFL，ACTFL OPI Scale を採用し，欧州評議会による言語能力の枠組み（CEFR）を参照して開発された。この評価基準を用いて，日本語母語話者と非日本語母語話者の発話を評価し，発話データの複雑さ，正確さ，流暢さ，および機能的適切さを分析した。その結果，評価尺度と発話データのすべての指標が評価尺度と相関していることが分かり，高い妥当性を有していることが示された。

また，根本ほか(2020)で使用されたスピーキングテスト STAR（Speaking Test of Active Reaction）のルーブリックを改良するために，教師経験の無い日本語母語話者を対象に，状況対応タスクのレベル判定比較実験を行った。実験の結果，本ルーブリックは，中級後半から上級レベルの弁別力が不足している可能性があるものの，受験者の音声を最後まで聞かなくても判定できる割合が上がり実用性が上がったことが分かった。さらに，この弁別性を焦点化したルーブリックを状況対応タスクだけでなく，音読・シャドーイング・絵描写・再話・意見述べといった他のタスクにも応用し，これらのテストタスクのルーブリックを作成した。

（3）CLIL におけるアセスメント

日本の大学における CLIL（Content and Language Integrated Learning，内容言語統合型学習）のカリキュラム構築とその教育効果の検証及び，教材化を目的とし，CLIL 授業内の課題である，期末レポート，ポートフォリオ等を評価する際に用いる評価ルーブリックの開発と妥当性の検証を行った。CLIL 評価ツールに関しては，出版した CLIL 教科書と CLIL 実践ガイドを用いて研修会を行うことで，CLIL の指導と評価に関する成果を周知した。現在は，ディスカッション，プレゼンテーション，質疑応答のルーブリックの妥当性検証に取り組んでいる。

（4）アセスメント開発のためのコーパス，システム

アセスメント開発や留学生教育のために活用可能なコーパス，システムの開発を行った。学習者発音コーパス（JALSPEC）は，様々な母語の日本語学習者による短文読み上げ，ロールプレイ，自己紹介，ストーリーテリングのデータをもとにしている。また，テスト問題の自動生成に関しても理工学的なアプローチで研究を進め，日本語語彙特性対応型穴埋めテスト作成器(JACKET)，漢字問題作成支援システムを開発した。

最後に、本研究の学術的意義と社会的意義を以下の３点にまとめる。（1）本研究で開発・検討されたアカデミック日本語能力のアセスメントツールにより，教室環境における学習および自律学習としての日本語アセスメントの実施を支援することができる。また，大規模テストよりも細やかな学習成果のフィードバックを実現し，我が国の成長に資する優秀な外国人留学生のアカデミック日本語能力の育成に貢献することが期待される。（2）アセスメントツールの開発と妥当性の検証により，アカデミック日本語能力の構成概念の一部が解明された。また，開発したアセスメントツールは，評価研究の実験・調査に必要なマテリアルとして活用することが出来る。（3）教室環境において，学習としてのアセスメントを実現するためのマニュアルを作成することにより，教師の評価リテラシーや指導技術の向上に貢献することができた。このマニュアルは，オンラインによるテスター養成を実現する基礎資料にもなりうる。また，テスト問題の自動生成に関する研究成果は，生成 AI を効率よく使用するためのプロンプト作成への応用が期待できる。

謝辞

本プロジェクトにおける調査実験にご協力くださった皆様に心から感謝申し上げる。

引用文献

根本愛子・ボイクマン総子・松下達彦（2020）「状況対応タスクの非日本語教師による判定の分析―プレースメントのための日本語スピーキングテストの検証―」『日本語教育』177 号, 1-16.

Hatasa, Y., & Watanabe, T. (2017). Japanese as a second language assessment in Japan: Current issues and future directions. *Language Assessment Quarterly*, *14*(3), 192-212.

Nation, I. S. P., & Waring, R. (2019). *Teaching extensive reading in another language*. Routledge.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計26件（うち査読付論文　18件／うち国際共著　3件／うちオープンアクセス　7件）

１．著者名 元田静・奥野由紀子	４．巻 24
２．論文標題 「日本語CLIL授業における学習者の思考の深化過程－ディスカッションにみられるキーワードと視点からの考察－」	５．発行年 2020年
３．雑誌名 ヨーロッパ日本語教育	６．最初と最後の頁 362-363
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 金　愛蘭	４．巻 170
２．論文標題 日本語学習者のテクスト理解とつまずき－語彙と意味を中心に－	５．発行年 2020年
３．雑誌名 日本語文法	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 横山千聖・畑佐由紀子	４．巻 26
２．論文標題 日本語学習者のAcademic Speaking の特徴に関する量的研究ー上位群・下位群・母語話者の比較を通してー	５．発行年 2020年
３．雑誌名 教育学研究ジャーナル	６．最初と最後の頁 101－110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 ボイクマン総子・根本愛子・松下達彦	４．巻 175
２．論文標題 「プレースメントのための日本語スピーキングテスト　－タスクと判定ツールの検証－」	５．発行年 2020年
３．雑誌名 日本語教育	６．最初と最後の頁 146-154
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 根本愛子・ボイクマン総子・松下達彦	4．巻 177
2．論文標題 「状況対応タスクの非日本語教師による判定の分析　―プレースメントのための日本語スピーキングテストの検証―」	5．発行年 2020年
3．雑誌名 日本語教育	6．最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松下達彦・佐藤尚子・笹尾洋介・田島ますみ・橋本美香	4．巻 22
2．論文標題 「学習者言語が日本語学術共通語彙の理解に与える影響　―中国語母語、中朝バイリンガル、韓国語母語、非漢字圏の学習者を比較して―」	5．発行年 2020年
3．雑誌名 専門日本語教育研究	6．最初と最後の頁 25-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 奥野由紀子	4．巻 第22号
2．論文標題 「内容＋言語」の教育と習得 ―序にかえて―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『第二言語としての日本語の習得研究』	6．最初と最後の頁 pp.5-9.
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 柳田　直美・澁川　晶・奥野　由紀子	4．巻 第1号
2．論文標題 アカデミックな日本語学習のためのシラバス構築の試み－会話・聴解の場面・機能から見る学習シラバス－	5．発行年 2019年
3．雑誌名 一橋大学国際教育交流センター紀要	6．最初と最後の頁 pp.17-28.
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 小林明子・奥野由紀子	４．巻 第22号
２．論文標題 内容言語統合型学習（CLIL）の実践と効果－日本語教育への新しい教育的アプローチ－	５．発行年 2019年
３．雑誌名 『第二言語としての日本語の習得研究』	６．最初と最後の頁 pp.29-43.
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 佐藤尚子・松下達彦・笹尾洋介・田島ますみ・橋本美香	４．巻 4
２．論文標題 学術共通語彙知識の獲得　―国立大学に入学する韓国人学習者を例として―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 千葉大学国際教養学研究	６．最初と最後の頁 55-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20776/S24326291-4-P55	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Tabata-Sandom, M., Banno, E. and Watanabe, T.	４．巻 10
２．論文標題 The integrated effects of extensive reading and speed reading on L2 Japanese learners' reading fluency	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Journal of Extensive Reading	６．最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 金　愛蘭	４．巻 170
２．論文標題 日本語非母語話者のテクスト理解とつまずきー語彙と意味を中心にー	５．発行年 2021年
３．雑誌名 語文	６．最初と最後の頁 103-106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 矢吹ソウ典子・奥野由紀子	4．巻 2021
2．論文標題 ストーリー描写課題における日本語学習者の事態把握の表現方法―視点表現に代わる主観的表現に着目して―	5．発行年 2021年
3．雑誌名 CAJLE Annual Conference Proceedings	6．最初と最後の頁 238-247
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 奥野由紀子	4．巻 517
2．論文標題 日本語L2使用者の陳述副詞のスタイル変化－縦断的な発話データからの考察－	5．発行年 2021年
3．雑誌名 人文学報	6．最初と最後の頁 11-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 奥野由紀子・神村 初美・趙キン・姫 宇禾・陳 永梅・エネザン バラ	4．巻 42
2．論文標題 内容言語統合型学習（CLIL）によるオンライン海外実習の試み―非母語話者実習生の変容に着目して―	5．発行年 2021年
3．雑誌名 日本語研究	6．最初と最後の頁 77-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Yabuki-Soh, N., Okuno, Y.	4．巻 38
2．論文標題 Japanese L2 learners’ subjective construal: an analysis of expressions of emotion and evaluation in written storytelling found in I-JAS data	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Jounral of Japanese Linguistics	6．最初と最後の頁 49-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 奥野由紀子・野村和之	4．巻 28
2．論文標題 移民・難民をテーマとした大学授業における教師の後悔が投げかけるもの ―戦略的共感の必要性―	5．発行年 2022年
3．雑誌名 The 28th Princeton Japanese Pedagogy Forum PROCEEDINGS』	6．最初と最後の頁 122-131
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 ボイクマン総子，根本愛子，松下達彦	4．巻 36
2．論文標題 スピーキングのレベル判定のための弁別性焦点化ルーブリック ―非日本語教師による判定結果の分析―	5．発行年 2022年
3．雑誌名 ことばの科学	6．最初と最後の頁 41-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18999/stul.36.41	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 松下達彦	4．巻 25
2．論文標題 漢字学習と語彙学習はどうあるべきか ―テスト、コーパス、データベースの分析から考える―	5．発行年 2022年
3．雑誌名 第二言語としての日本語の習得研究	6．最初と最後の頁 117-122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田島 ますみ，松下 達彦，佐藤 尚子，橋本 美香，笹尾 洋介	4．巻 16(25)
2．論文標題 日本語学術共通語彙の理解度の評価―大学生と小中学生の学年別比較―	5．発行年 2022年
3．雑誌名 リメディアル教育研究	6．最初と最後の頁 145-159
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18950/jade.2022.07.01.10	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 ボイクマン総子，根本愛子，松下達彦	4．巻 24(2)
2．論文標題 日本語教師歴の違いによるスピーキングテスト判定結果の比較 ―状況対応タスクに対する判定結果要因の分析―	5．発行年 2022年
3．雑誌名 社会言語科学	6．最初と最後の頁 37-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.19024/jajls.24.2_37	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 稲田朋晃，品川なぎさ，丸山岳彦，松下達彦	4．巻 29
2．論文標題 医学語彙テストの開発と評価	5．発行年 2021年
3．雑誌名 専門日本語教育研究	6．最初と最後の頁 19-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松下達彦，劉瑞利，得丸智子，中島明則	4．巻 180
2．論文標題 日本語語彙特性対応型穴埋めテスト作成器JACKETの開発と応用	5．発行年 2021年
3．雑誌名 日本語教育	6．最初と最後の頁 80-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松下達彦，佐藤尚子，笹尾洋介，田島ますみ，橋本美香	4．巻 178
2．論文標題 日本語の語彙量と漢字力 ―第一言語と学習期間の影響―	5．発行年 2021年
3．雑誌名 日本語教育	6．最初と最後の頁 139-153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20721/nihongokyoiku.178.0_139	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計54件（うち招待講演　18件／うち国際学会　24件）

１．発表者名 奥野由紀子・元田静
２．発表標題 日本語CLIL授業におけるディスカッションの分析 －思考の深化に着目して－
３．学会等名 日本CLIL教育学会第20回例会
４．発表年 2020年

１．発表者名 奥野由紀子
２．発表標題 日本語教師のためのCLIL入門－理論と実践－
３．学会等名 公益財団法人日本台湾交流協会2020年度第3回日本語教育研修会
４．発表年 2020年

１．発表者名 奥野由紀子
２．発表標題 CLILの理論と実践
３．学会等名 第51回アカデミックジャパニーズグループ定例研究会
４．発表年 2020年

１．発表者名 奥野由紀子・佐々木瑞枝・西口光一・松田真希子・門倉正美・佐々木良造・吉川達
２．発表標題 何のための多読？すぐれた多読学習材とは？－知的好奇心を刺激する多読学習材をめざして－「現代社会再考プロジェクト」
３．学会等名 現代社会再考プロジェクト 公開パネルディスカッション
４．発表年 2020年

１．発表者名 松本Sturt 洋子・奥野由紀子・笹島茂
２．発表標題 日本語教育と英語教育と多言語多文化教育
３．学会等名 日本CLIL教育学会第3回大会　シンポジウムパネルディスカッション
４．発表年 2020年

１．発表者名 Toshiki Aisaka, Hirotoshi Honma, Yoko Nakajima, Tomoko Watanabe
２．発表標題 A Support System to Generate Kanji Reading and Writing Exercises for Learners of the Japanese Language
３．学会等名 STI-Gigaku 2020（International Conference on “Science of Technology Innovation"）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Mitsue Tabata-Sandom
２．発表標題 流暢さを高めるためにはどうすればいいか
３．学会等名 国際シンポジウム「日本語教育における多読・速読の理論と実践」（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 松下達彦
２．発表標題 多読・速読のための語彙力測定の構想
３．学会等名 国際シンポジウム「日本語教育における多読・速読の理論と実践」（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 坂野永理
２．発表標題 多読教材の開発
３．学会等名 国際シンポジウム「日本語教育における多読・速読の理論と実践」（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 渡部倫子
２．発表標題 速読教材の開発
３．学会等名 国際シンポジウム「日本語教育における多読・速読の理論と実践」（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Mitsue Tabata-Sandom
２．発表標題 やってみよう！速読体験
３．学会等名 国際シンポジウム「日本語教育における多読・速読の理論と実践」（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 奥野由紀子
２．発表標題 CLIL授業において学習者の思考はどのように深まるのか－トランスランゲージングからの考察－
３．学会等名 韓国日本語教育学会　第36回冬季国際学術大会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 奥野由紀子・呉佳穎
２．発表標題 CLIL初中級クラスにおけるコースデザインの試み ―言語・認知的負担への考慮―
３．学会等名 2019年度日本語教育学会春季大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 元田静・奥野由紀子
２．発表標題 日本語CLIL授業における学習者の思考の深化過程―ディスカッションにみられるキーワードと視点からの考察―
３．学会等名 The 23rd Japanese Language Education Symposium in Europe (AJE)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 奥野由紀子
２．発表標題 初中級における世界の食や環境をテーマにした実践―スキャフォールディングでつなぐ―
３．学会等名 EJHIB2019（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 奥野由紀子
２．発表標題 日本語教育における多様な学習者に対するCLILの可能性
３．学会等名 日本CLIL（J-CLIL）教育学会第２回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 奥野由紀子
２．発表標題 ディスカッションの中でいかに思考の深化を促すかパネルテーマ個を軸にした初級から上級への成長
３．学会等名 第一回日本語プロフィシェンシー研究学会国際大会（第12回OPI国際シンポジウム）（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 奥野由紀子
２．発表標題 平和の実現を目指す日本語教育実践－初中級での内容言語統合型学習(CLIL)－
３．学会等名 3rd International Conference on Japanese Language Education, Literature and Culture（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yoko Nakajima, Hirotoshi Honma, Kazuhide Yamamoto
２．発表標題 Automatic Generation of Supplementary Conjunction Questions for Learners of Japanese
３．学会等名 The 4th International Conference on Science of Technology Innovation（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 ボイクマン総子・根本愛子・松下達彦
２．発表標題 同一の判定基準を用いて異なる言語行動を判定することが可能か
３．学会等名 日本語教育学会（2019年度春季大会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 根本愛子・ボイクマン総子・松下達彦
２．発表標題 スピーキング評価の着眼点はレベルと言語行動によって異なるか
３．学会等名 第28回小出記念日本語教育研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 田畑サンドーム光恵・松下達彦
２．発表標題 参加型日本語多読オンラインサイト読み物いっぱいの構築と運営
３．学会等名 The 8th CASTEL/J（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 田島ますみ・佐藤尚子・松下達彦・笹尾洋介・橋本美香
２．発表標題 日本人大学生における日本語の文章理解と語彙力の関係
３．学会等名 日本リメディアル教育学会第11回九州・沖縄支部会大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 佐藤尚子・松下達彦・笹尾洋介・田島ますみ・橋本美香
２．発表標題 学術共通語彙に関する音声知識と文字知識の違い
３．学会等名 第22回専門日本語教育学会研究討論会
４．発表年 2020年

１．発表者名 Hatasa, Yukiko
２．発表標題 Effects of native language and accent type on L2 production, perception and monitoring of Japanese lexical accent.
３．学会等名 2019 International Conference on Language, Education and Culture（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 渡部倫子
２．発表標題 超級における複言語環境で育つ子どもの教育をテーマにした実践―ポートフォリオで振り返る―
３．学会等名 The 23rd Japanese Language Education Symposium in Europe (AJE)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 畑佐由紀子
２．発表標題 Task-Based Assessment of Academic Speaking Ability in Japanese: L1 and L2 differences in complexity, accuracy, fluency and functional adequacy.
３．学会等名 AILA World Congress 2021（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 畑佐由紀子
２．発表標題 Assessment of Academic Speaking Ability in Japanese: L1 & L2 difference in complexity, accuracy, fluency and functional adequacy
３．学会等名 16th International Conference of the European Association for Japanese Studies（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 畑佐由紀子・高橋恵利子
２．発表標題 Effects of lexical knowledge, production, self-monitoring on Japanese accent production by native speakers of English and Chinese
３．学会等名 The 10th International Symposium on the Acquisition of Second Language Speech (New Sounds 2022) （国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Toshiki Aisaka, Yoko Nakajima, Hirotoshi Honma, Takashi Yukawa, Tomoko Watanabe
２．発表標題 A System to Generate Kanji Reading and Writing Questions for Learners of the Japanese Language
３．学会等名 The 7th International Conference on Science of Technology Innovation（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Toshiki Aisaka, Yoko Nakajima, Hirotoshi Honma, Tomoko Watanabe
２．発表標題 A System to Generate Kanji Reading and Writing Questions for Learners of the Japanese Language
３．学会等名 The 41st JSST Annual International Conference on Simulation Technology（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 相坂敏希・本間宏利・中島陽子・渡部倫子
２．発表標題 日本語学習者のための漢字読解問題生成システムの開発
３．学会等名 超異分野学会 北海道フォーラム2022
４．発表年 2022年

１．発表者名 相坂敏希・本間宏利・中島陽子・渡部倫子
２．発表標題 日本語学習者のための漢字問題作成支援システムの開発
３．学会等名 2021年東北・北海道地区高等専門学校専攻科 産学連携シンポジウム
４．発表年 2022年

１．発表者名 奥野由紀子・神村初美・趙キン・姫宇禾・陳永梅・エネザンバラ
２．発表標題 内容言語統合型学習（CLIL）によるオンライン海外実習の試み
３．学会等名 2021年度日本語教育学会春季大会 オンライン発表
４．発表年 2021年

１．発表者名 奥野由紀子
２．発表標題 SLA の知見から「プロフィシェンシー」再考「L2 使用者の主体性が促す言語の社会化－縦断的な発話のスタイル変化に着目して－
３．学会等名 日本語プロフィシェンシー研究学会 10 周年記念シンポジウム　zoomウェビナー（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 矢吹ソウ典子・奥野由紀子
２．発表標題 ストーリー描写課題における日本語学習者の事態把握の表現方法―視点表現に代わる主観的表現に着目して―
３．学会等名 Canadian Association for Japanese Language Education (CAJLE)2021, University of Alberta, Edmonton, Alberta (Online)（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 奥野由紀子
２．発表標題 日本語教師のためのCLIL入門ー理論と実践ー
３．学会等名 お茶の水女子大学国際教育センター主催公開講演会　オンライン開催（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 奥野由紀子・小林明子・佐藤礼子・元田静・渡部倫子
２．発表標題 CLIL教科書『日本語でPEACE』を使った実践例
３．学会等名 第1回J-CLIL Japanese学習会
４．発表年 2021年

１．発表者名 奥野由紀子
２．発表標題 プロジェクトA　活動報告　対話を通して実践の意味を探る～実践を伝える・実践から学ぶ視点の検討～内容と言語を統合する学び―教材との関連から―
３．学会等名 子どもの日本語教育学会　研究企画委員会　オンライン開催（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 奥野由紀子・野村和之
２．発表標題 移民・難民をテーマとした大学授業における教師の後悔が投げかけるもの　―戦略的共感の必要性―
３．学会等名 Princeton Japanese Pedagogy Forum（オンライン発表）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 奥野由紀子・佐藤礼子・渡部倫子
２．発表標題 日本語で世界の課題を学ぶCLIL(内容言語統合型学習)の実践、してみませんか－『日本語でPEACE』を中心に－
３．学会等名 凡人社オンライン日本語サロン研究会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 奥野由紀子
２．発表標題 内容言語統合型学習（CLIL）の教材開発－『日本語でPEACE』を例に－
３．学会等名 第110回第2言語習得研究会（関東）（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 奥野由紀子
２．発表標題 内容言語統合型学習（CLIL） 教育実践入門 －『日本語でPEACE』に基づいて－
３．学会等名 2022 年度第１回支部集会【九州・沖縄支部】日本語教育学会・ 筑紫女学園大学主催（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 奥野由紀子
２．発表標題 大学初年次教育における当事者意識を高める教師の役割－移民・難民をテーマとして－
３．学会等名 ヨーロッパ日本語教師会(AJE)第25回日本語教育シンポジウムライデン大学 （オンライン発表）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 奥野由紀子・グエン ホン ゴック
２．発表標題 貧困問題をテーマとしたアタマ×ココロ×カラダによる内容言語統合型学習 （CLIL）実践 －履修者の振り返りの分析から－
３．学会等名 アジア人材還流学会 ハノイ国際セミナー（オンライン発表）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 奥野由紀子・小林明子・佐藤礼子・元田静・渡部倫子
２．発表標題 日本語教師のための CLIL 実践ガイド－活動例を中心に－
３．学会等名 凡人社オンライン日本語サロン講座（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 奥野由紀子
２．発表標題 中上級を対象としたPEACEプログラムの実践とアセスメント－CLIL（内容言語統合型学習）をはじめてみませんか－
３．学会等名 日越大学日本語教師研修『当事者性を高める日本語教育』ベトナム・日越大学（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 奥野由紀子
２．発表標題 内容言語統合型学習(CLIL)教育実践入門－『日本語でPEACE』に基づいて－
３．学会等名 日本語教育人材の研修日本語教育におけるCLIL（内容言語統合型学習）の導入について』ベトナム・ハノイ工業大学"（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Yoko Ikeda, Eri Banno, Mieko Sakai
２．発表標題 Current Issues and Development of Graded Readers for Japanese Language Learners
３．学会等名 Extensive Reading Around the World 2021（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 ボイクマン総子，根本愛子，松下達彦
２．発表標題 日本語のスピーキングテストにおける音読およびシャドーイングタスクの開発と妥当性検証 ―論証に基づく妥当性検証の枠組みを用いて―
３．学会等名 日本言語テスト学会（JLTA）第24回全国研究大会
４．発表年 2021年

〔図書〕　計9件

１．著者名 奥野由紀子，小林明子，佐藤礼子，元田静，渡部倫子	４．発行年 2021年
２．出版社 凡人社	５．総ページ数 200
３．書名 日本語×世界の課題を学ぶ　日本語でPEACE　［Poverty　中上級］	

１．著者名 奥野由紀子，小林明子，佐藤礼子，元田静，渡部倫子	４．発行年 2022年
２．出版社 凡人社	５．総ページ数 120
３．書名 日本語でPEACE　CLIL実践ガイド	

1．著者名 坂野永理，池田庸子，品川恭子，坂井美恵子	4．発行年 2023年
2．出版社 ジャパンタイムズ出版	5．総ページ数 244
3．書名 初級日本語よみもの げんき多読ブックス Box 1	

1．著者名 坂野永理，池田庸子，品川恭子，坂井美恵子	4．発行年 2023年
2．出版社 ジャパンタイムズ出版	5．総ページ数 268
3．書名 初級日本語よみもの げんき多読ブックス Box 2	

1．著者名 坂野永理，池田庸子，品川恭子，坂井美恵子	4．発行年 2023年
2．出版社 ジャパンタイムズ出版	5．総ページ数 264
3．書名 初級日本語よみもの げんき多読ブックス Box 3	

1．著者名 坂野永理，池田庸子，品川恭子，坂井美恵子	4．発行年 2023年
2．出版社 ジャパンタイムズ出版	5．総ページ数 248
3．書名 初級日本語よみもの げんき多読ブックス Box 4	

１．著者名 奥野由紀子，岩崎典子，小口悠紀子，小林明子，櫻井千穂，嶋ちはる，中石ゆうこ，渡部倫子	４．発行年 2021年
２．出版社 くろしお出版	５．総ページ数 224
３．書名 超基礎・第二言語習得研究	

１．著者名 畑佐由紀子	４．発行年 2022年
２．出版社 くろしお出版	５．総ページ数 286
３．書名 学習者を支援する日本語指導法 Ⅰ　音声・語彙・読解・聴解	

１．著者名 福田倫子,小林明子,奥野由紀子,阿部新,岩崎典子,向山陽子	４．発行年 2022年
２．出版社 くろしお出版	５．総ページ数 180
３．書名 第二言語学習の心理　個人差研究からのアプローチ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

国際シンポジウム 日本語教育における多読・速読の理論と実践 ー多読と速読で読みの流暢さを伸ばそう！ー
https://sym.nihongo.hiroshima-u.ac.jp/
猫の手かします！日本語評価 CAAAT
https://caaat.hiroshima-u.ac.jp/
JALSPEC Japanese Learners' Speech Corpus
http://jlc.hiroshima-u.ac.jp/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	松下　達彦 (Matsushita Tatsuhiko) (00255259)	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・研究系・教授 (62618)	
研究分担者	坂野　永理 (Banno Eri) (30271406)	岡山大学・全学教育・学生支援機構・特命教授 (15301)	
研究分担者	畑佐　由紀子 (Hatasa Yukiko) (40457271)	広島大学・人間社会科学研究科（教）・教授 (15401)	
研究分担者	本間　宏利 (Honma Hirotoshi) (80249721)	釧路工業高等専門学校・創造工学科・教授 (50103)	
研究分担者	奥野　由紀子 (Okuno Yukiko) (80361880)	東京都立大学・人文科学研究科・准教授 (22604)	
研究分担者	金　愛蘭 (Kim Eran) (90466227)	日本大学・文理学部・准教授 (32665)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	田畑サンドーム　光恵 (Tabata-Sandom Mitsue)	マッセー大学・School of Humanities Media and Creative Comm・Lecturer	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計1件

国際研究集会 国際シンポジウム 日本語教育における多読・速読の理論と実践 ー多読と速読で読みの流暢さを伸ばそう！ー	開催年 2021年～2021年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関